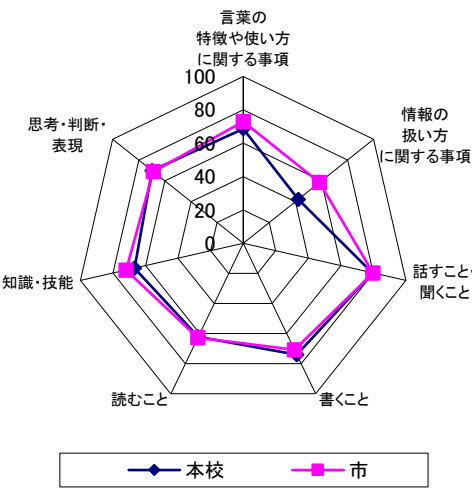


宇都宮市立西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	42.3	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	79.5	79.8	75.9
	書くこと	74.0	70.7	71.7
	読むこと	62.1	62.8	62.5
観点別	知識・技能	66.8	72.0	74.4
	思考・判断・表現	69.8	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

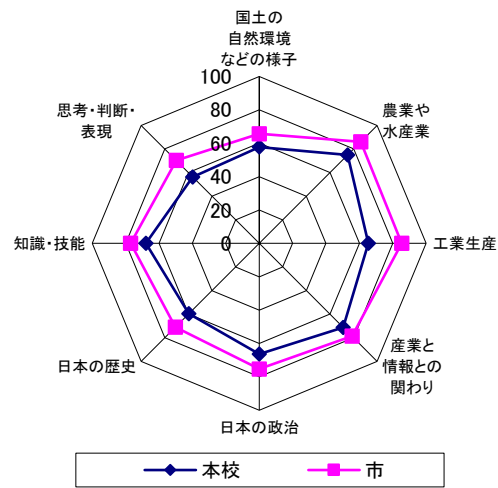
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○文の構成(述語)について理解することや、国語辞典の使い方を理解することについては、市の平均を上回っている。 ●第5学年の配当漢字を書くことについて課題が見られる。	・漢字については、自主的な練習を促すとともに、プリント学習を通して6年間に習った漢字が定着していくようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡潔にまとめて2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。	・授業の中で、目的意識をもち文を書いたり文の要旨をまとめたりする活動を取り入れる。また、文の情報について正しく読み取るための文章の構成について学習したり、図や表、グラフなどの読み取り方について指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことについては、市の平均を上回っている。 ●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞き取ることについては、やや課題が見られる。	・授業や学校生活の中で、話す・聞く活動を多く取り入れ、話し方の工夫や司会の役割を考えながら、実際の話し合い活動をもとに、計画的に話し合いを進めていけるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○目的や意図に応じ伝えたいことを明確にしていこう習慣づけていく ○自分の意見とその理由を明確にして書けている ●目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことについては、課題が見られる	・テーマや条件、目的や意図に合わせたり、グラフや表をもとにしたりして、伝えたい内容を整理しながら書けるように、具体的な書き方を提示しながら文章表現力を高めていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○「場面の描写を読み取ることができる」、「与えられた情報を読み取り、修正する箇所を理解することができる」については、市の平均を上回っている。 ●「目的や必要に応じて、登場人物の心情を読み取ることができる」については、課題が見られる。	・登場人物の様子や情景を基に心情を捉えられるようにして読み取りを進めていく。また、児童が様々な作品や文章に触れる機会を増やし、読書に親しむ態度の育成や読書活動の充実を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	57.7	65.7	67.0
	農業や水産業	75.0	86.1	77.5
	工業生産	65.4	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	71.2	78.6	69.6
	日本の政治	66.3	75.2	65.8
	日本の歴史	59.6	71.1	69.1
観点別	知識・技能	67.9	77.0	72.8
	思考・判断・表現	56.3	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

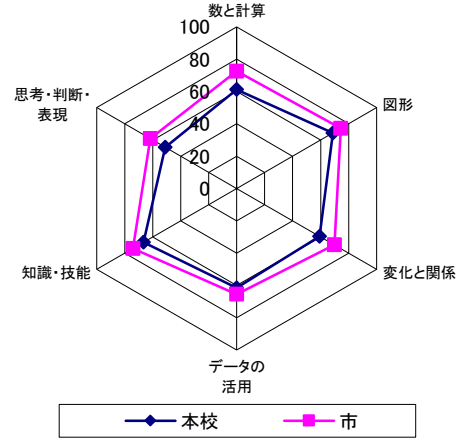
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	全体的な校内の平均正答率は、市の結果よりも下回っている。 ○日本の周辺の海洋名について答える問題については、市の平均を11ポイント上回っていることからよく理解できていることがわかる。 ●日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断する問題では、全国平均と同等であるが6割が誤答であり理解不足である。	・資料の読み取りや活用については、よく理解している児童が多いが、生活の中で、日頃から地図を見る機会を増やしていき、地理的知識の習得を図っていく。
農業や水産業	○米作りの生産効率について考え、表現する問題では、8割が正答することができた。 ●国内総生産量と輸入量の変化について、資料を読み取る問題について市平均より17ポイント下回っており、同じく米作りの作業の理解をもとに資料を読み取る問題でも20ポイント下回っていることから、資料を活用する力が不足しているといえる。	・資料から読み取れる内容を整理し、そこから何が考えられるかを導き出すような、思考力を問う問題を扱うとともに、分かったことを説明する機会を増やしていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を下回っている ●電気自動車に着目し、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現する力が不足している。	・資料をよく読み取り、比較や検討をすることを通じて、そこから考えられることを言葉で説明する表現活動を増やす。反復練習を繰り返すことで習熟を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●マスメディアの種類を問う問題では市の平均を下回った。 ●情報ネットワークの仕組みにおいて、正しい受け取り方を問う問題では、市平均を若干下回った。	・情報機器の種類や操作の方法については、日頃から様々な情報機器を使用することに加え、多くの資料に触れることを通して、出題に慣れていくようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を下回っている ○日本国憲法における天皇の地位について理解できている。 ●裁判のしくみや国会の働きについて理解不足である	・国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割や日本国憲法などの内容を理解し自分の言葉で解説するなどして定着を図るようにする。
日本の歴史	○平清盛や源頼朝の問題については、市平均並みである。 ●資料を読み取り考える問題において、市平均よりも15ポイント低い ●室町文化の特徴について捉え、表現する問題では、市平均より27ポイント低く理解不足である。	・歴史的な事実をしっかりと覚え、それぞれの出来事が相互に関連していることをよく理解できるようにする。また、歴史上の出来事について、キーワードとなる言葉を中心に、関係している人物も含めて説明できるようにする。

宇都宮市立西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	61.2	72.6	71.6
	図形	68.8	74.4	72.0
	変化と関係	59.2	69.8	62.6
	データの活用	61.5	65.5	59.1
観点別	知識・技能	66.6	74.1	68.9
	思考・判断・表現	51.1	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

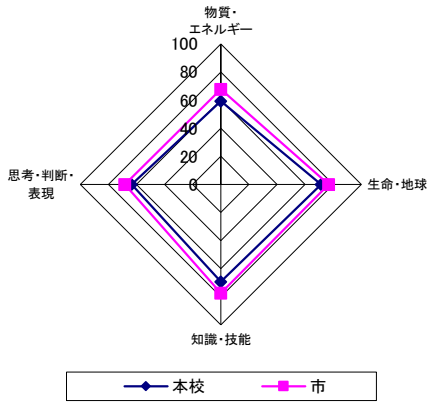
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内の平均正答率は、市の平均より下回っている。 ○分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、市の平均を上回っている。 ●小数どうしの乗法・除法、分数どうしの加法・乗法・除法の計算問題や、図を使って小数倍の文章問題に合った乗法・除法の式を選ぶ問題において、市の平均を大きく下回っている。	・小数・分数の計算の仕方について再度指導するとともに、計算ドリルや復習プリントを活用し繰り返し問題を解くことで、計算技能の定着を図っていく。
図形	校内の平均正答率は、市の平均より下回っている。 ○三角形の内角の和が180°であることを理解し、与えられた三角形の1つの外角を求める問題で5.2ポイント、点対称な図形について対称の軸が何本あるかを求める問題で6.2ポイント市の平均を上回っている。 ●台形の面積や直方体を組み合わせた形の体積を求める問題や、三角形の展開図から見取り図の辺の長さを読み取る問題において、市の平均を下回っている。	・面積や体積の求め方について公式を確認し復習をするとともに、図から底辺や高さに当たる部分などをスムーズに読み取ることができるように、図形の見方に慣れさせていく。 ・展開図や見取り図の見方について理解が深められるよう、自分で図をかくなど練習問題を繰り返し、内容の定着を図っていく。
変化と関係	校内の平均正答率は、市の平均より下回っている。 ●どの項目もすべて市の平均を下回っており、値に0がある分離量の平均を求めたり、図から面積と人数の割合を求め、どのシートが最も混んでいるかを考察したりする問題で、市の平均より10ポイント以上下回っている。 ●同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから弟が走る距離を何mにすればよいか判断する問題では、記述式の解答であったが無記入の割合が42.3ポイントであった。	・身近な具体例を示しながら単位量当たりの大きさや速さの学習内容を再度指導するとともに、理解が深められるように練習問題を積み重ねていく。 ・どのような問題も、自分の考えをもち自分なりの方法で記述する習慣をつけるよう、説明の文章が必要な記述解答式の問題にも数多く取り組ませていく。
データの活用	校内の平均正答率は、市の平均より下回っている。 ●集団のデータの平均値を求める問題で、市の正答率より9.4ポイント下回っている。 ●折れ線グラフや棒グラフを読み取る問題では、市の正答率より約5ポイント下回っている。	・データの見方について再度指導し、平均値だけではなく、中央値・最頻値など様々な見方で特徴を読み取ることができるようにしていく。 ・いろいろなグラフの特徴や読み方について復習をし、目的に応じたグラフを選んだりかいたりし、内容の定着を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.3	67.8	64.1
	生命・地球	71.4	76.7	78.3
観点別	知識・技能	69.2	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.5	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	校内正答率は、市正答率よりも低い。 ○ふりこの1往復する時間と重さの関係についての問題では73.1%で、市正答率を1.2ポイント上回っている。 ●電磁石が鉄を引きつけたり放したりできる理由を問う問題では市正答率を17.7ポイント、物が燃える時には酸素の一部が使われることを理解しているか確かめる問題では33.9ポイント下回っている。	・視覚に訴えたり体験的に学習を進めたりし、理解を深められるようにしていく。また、プリント学習等を通して、繰り返し復習できるようにする。 ・実験のねらいを明確にし、繰り返し説明をしながら進めるとともに、結果から何が言えるのか考察する場面を丁寧に進めていく。 ・理科における表現力を高めるために、言葉の意味を丁寧に説明したり、プリントへの記述や発表の場を設けたりすることで使い方の練習を繰り返し、基礎的な語彙力として定着するよう支援していく。 ・物が燃える時には酸素の一部が使われることを理解しているか確かめる問題の誤答では、「酸素がすべて使われる。」が多かったことから、問題文の正確な読み取りとともに授業での理解が十分でなかったことが考えられる。今後もまとめの場面を充実させるとともに、文章や言葉の使い方、正確な読み取り方や聞き取り方についても繰り返し触れていくようにする。
生命・地球	校内正答率は、市正答率よりも低い。 ○台風の動き方に関する問題では9.5ポイント、日光に当てた後の酸素と二酸化炭素の割合に関する問題では13.1ポイント市正答率を上回った。 ●春ごろの天気の変わり方を問う問題では22.4ポイント、画像から雲情報と雨量情報を結び付けて考える問題では16.7ポイント、市正答率を下回っている。	・天気に関連する問題では身近な問題として取り上げ、テレビの天気予報や新聞の天気欄等を継続的に活用するなどして視覚に訴え、理解を深めるようにしていく。 ・実際に触れることができない内容については視覚教材を充実させるとともに、画像や情報から読み取れることやそれらを結び付けた考え方などに触れられるように、考察の場面を十分に確保していく。

宇都宮市立西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着	漢字の読み書きや、より速く正確に計算する力をつけるため、単元ごとの漢字ミニテストや計算ドリル学習を行っている。また、少人数指導、TT指導など学習形態を工夫することで個に応じて基礎基本の定着を図っていく。	低学年では「勉強が好き」と答える児童が市の肯定割合を上回っているが、6学年では、下回るとともに、「授業が分かるか」の質問も下回っている傾向がある。 基礎基本の定着を図るために、今後も引き続き、漢字や計算ドリルの反復学習に継続して取り組ませていく。また、基礎基本の定着には、個人差があることから、与えられた課題のみならず、自ら課題を見つけて苦手を克服していけるような家庭学習の取り組みについて、指導していく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聴く時間を確保している。ペアやグループでの話し合いなど、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	グループでの話し合いに進んで参加することについては市の平均を下回っている。しかし、6学年では、「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる」項目において、市を13ポイント上回っており、話し合い活動における本校の取り組みの成果が見られる。今後も、今年度の学校課題であった話し合いの機会を多く取り入れ、継続して取り組んでいきたい。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えをつないだりするノート指導を行っている。	「授業で習ったことをわかりやすくノートにまとめている」の質問では、1学年から5学年までで市より上回っている。自分の考えと友達の意見を比較し、共通点や相違点について深く考える学習活動において、自分の考えを書く習慣が身に付いてきている。今後も板書のみならず、キーワードを用いて自分なりにまとめたり、友達のノートを参考にしたりする機会を設けていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の定着は、個人差が大きい。次年度も引き続き基礎基本の定着を図るべく、習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導法を工夫し、保護者と連携し家庭学習の習慣を定着させる。
- ・学校課題である「主体的」「対話的」で「深い学び」につながる学習活動における話し合い活動では、引き続き授業の様々な場面で教科の特性を生かしながら、ペアやグループでの話し合いに加えて、授業者を介して児童同士が自分の考えを広げたり深めたりできるような授業を展開する。
- ・授業のまとめについては、本時の課題に対するまとめや振り返りを自分の言葉で表現させることで、学習内容の理解を深めていけるようにする。また、振り返りは、短期目標や長期目標に応じて個人内評価を行い、児童自身が変化や成長を感じられ次時への意欲付けが図れるように活用する。